



AA日本ニューズレター

No.170

■ 民生委員経験者の私とAA

埼玉県本庄市 元民生・児童委員 青木明子

私は民生・児童委員経験者で、AAの方々にその存在と仕事内容を知って頂くために原稿を依頼されました。民生・児童委員紹介の前に、私とAAとの出会いを書かせて頂きたいと思います。

私はクリスチャンです。私がAAと出会ったのは、二年前に本庄グループがカトリック本庄教会の会場を使われるようになって、早くから来てミーティングの準備をされていたAAの方に声をかけていただいたことがきっかけでした。いつも早く来られて一生懸命に準備されている姿を拝見していると、集まりをとても大切にされていることが分かりました。AAの素敵なトールペイントの看板もあたたかさを感じるものでした。ミーティングに参加させて頂いて、よりAAの雰囲気の魅力を感じました。お話の内容はとても壮絶なものでしたが、皆さんの謙虚で正直な姿に、社会の集まりとは違う特別なものを感じました。壮絶だけれど淡々としていて、圧力や堅苦しさを感ぜない平等な不思議な平安がありました。また、12のステップを知り、大きな魅力を感じて、もっと知りたいと思うようになりました。私はその時、試練の中において、アルコール依存症ではなくても、悲しくて苦しくてどうしようもない心の状態にいましたので、12のステップが神様の救いの手に思えました。その後、何度か集まりに参加させて頂きステップや伝統の勉強によってとても助けられました。私は、誰もが求めている、「人はどのように生きたいのか」という答えが、苦しむAAの方々のところに種として蒔かれたことに感動し、今、その実を頂くことができることに感謝しています。そして、このステップを知って、今は教会の中で自然にステップを学び行うことができるはずだと思っています。

私がステップに大きな解放を感じた理由は、ステップ1の「降伏」「無力を認めること」が今までできていなかったからだと分かりました。自分の理想どおりのクリスチャンになろうとしていました。また、プログラムの求める「厳しい正直さ」という言葉にとっても衝撃を受けました。自分は自分の心の思いを正直に認めてこなかったことが分かりました。自分の弱さを否定して、理想を優先し、人の思いを大切にすることが愛だと思っていました。

今回この原稿を依頼されて改めてステップ1を読み、ふたたび同じように感じました。「降伏することである、つまり、もうこれ以上戦わ

なくてよいということである」「ダウンしたままでいい。今度倒れたら二度と立ち上がらなければいいんだ」という言葉に涙があふれました。今回それを認め、とても楽になりました。この依頼に感謝したいと思います。

本題に入ります。民生・児童委員について紹介させていただきます。民生・児童委員はそれぞれの地域に必ずいる地域福祉のキーパーソンです。地域で援助を必要とする人が、自立した生活を営むことができるように支援します。民生・児童委員について私が務めた本庄市の広報紙に書かれたものを抜粋して紹介させていただきます。

- 心配事の相談にのり、お手伝いをするのが民生・児童委員です
- 民生・児童委員は、地域住民がかかえる心配事などについて親身になって相談に応じ、必要によっては関係機関と連絡調整する「パイプの役割」を努めています
- 民生・児童委員は、秘密厳守・プライバシーの保護に努めています

活動の基本としては、七つの働きがあります。

1、社会調整の働き 2、相談の働き 3、情報提供の働き 4、連絡通信の働き 5、調整の働き 6、生活支援の働き 7、意見具申の働き

このような働きを、自分の体験を振り返りながら、具体的に説明させて頂くと、(1)一人暮らしの高齢者や、生活保護家庭、母子、父子家庭など、気がかりで身近に頼る人がいない家庭を把握し(2)相談を受けた時には社会福祉の制度やサービスについて相談にのり(3)相談を受けなくても必要と感じた時にはお知らせしました(4)そして、相談・情報の提供後、福祉機関に連絡を取りました(5)その際はパイプ役でありながらも、住民の立場に立って、適切なサービスが受けられるように支援しました(6)また、住民のかたの協力も借りて支援の体制を作り(7)その中で困ったことや、問題に感じたこと、手に負えないことなどを会議で報告しました。

私が活動していた時の私の地区では、アルコールで苦しむ人について、会議などで触れることはほとんどなく、AAの存在も知りませんでした。酔っぱらって近所の人が迷惑し、苦情を受けたことを聞いたことはありますが、AAの存在も知らず、苦情への対応や見守りなどの支援にとどまったようでした。

AAの方々でも民生・児童委員の存在や役割を知らない方もいらっしゃるということで、昨年セミナーでお話しさせて頂きました。その時に、「ある市では民生委員がAAの存在を知っていて、民生委員によってAAにつながった仲間がいる」と、話に来てくださるAAの方がいらっしゃいました。民生・児童委員がAAを知ることで救いにつながると分かりました。

私は、この時のスピーカー依頼を機会に、私の地域の現在の民生・児童委員の方に、AAのことをお話しさせて頂きました。その方は、「最近では、以前にはなかった自死を止めるガードキーパーの研修などを通して、苦しむ人の気持ちを学ぶようになったので、困った時には相談してほしい」と言われました。

私はアルコールで苦しむ人たちが、民生・児童委員や様々な福祉機関を知り、AAにつながることを願います。また、様々な機関がAAについてよく知るようになることも希望します。今回を機会に、そのためにできることを少しでもお手伝いさせて頂きたいと感じました。苦しむ人が、ステップと仲間によって救われ、喜びと平安を生きる恵みを祈ります。

民生委員とAAのつながりを

埼玉／秩父グループ／北川

今回原稿を依頼した青木さんに出会うまで、民生委員(正確には民生・児童委員)の存在とその仕事について漠然と知っていたものの、これほど多くの民生委員(本庄市は人口約8万人で民生委員は177名)がいらっしゃり、家庭の問題に近い位置で接していることは知りませんでした。

改めて、直近のAAメンバーシップサーベイを見てみると、0.5%のなかまが民生委員経由でAAにたどり着いています。民生委員が福祉事務所や保健所などの機関に連絡をしてAAにつながった分を含めるともっと多くなるかと思えます。

そのようなことも念頭において、昨年度の本庄グループのセミナーでは青木さんにゲストスピーチをお願いし、青木さんの紹介で民生委員会長と市の社会福祉課担当者にお会いして、全民生委員の方にAAを紹介するパンフレットをお配り頂きました。また隣町の上里町では、武州こだまグループのなかまが民生委員といっしょにアルコール依存で苦しむなかまとお会いするということもありました。

そして、9月に秩父で開かれた「埼玉北地区の集い」では、会場

のある地元秩父保健所管内の1市4町すべての自治体の福祉課の保健師さんを通じて、全民生委員約200名の方に集いの案内(なかま向けとは別にAAと集いを易しく紹介したものを作成)をお配りして、3名の方の参加をいただきました。

伝統11(長文のもの)には次のように書かれています。『…AAのことを自画自賛する必要は少しもない。AAの友人たちに推奨してもらおうほうがよいと私たちは考える』

仕事としてアルコールク家庭と身近に接することになるかもしれない民生委員の方々に、もっともっとAAのことを知ってもらい、広めてもらうことが求められているように思います。

■各地域より

「AAの関係者」から「AAの友人」～広報活動をして～

静岡 富士のバラグループ ひろし

グループに入り、2～3年の時から、先行く仲間に言われ、オープンスピーカーミーティングのチラシを関係者の所に配布をした。1年に1度、このチラシを配り、AAの事を知ってもらえるのかな？AA自身を知らないよな？意味あるのかな？ろくにAAの事が説明できない自分はこんな思いでした。

あれから時間が経ち、新しいグループを始めることができ、関係者の所に会場案内を配布した。年に1度だけではなく、継続するにはどうしたら良いだろうか？こんな思いでスタートしました。ミーティングは月曜日に月に2回の開催をしました。別会場でミーティングを増やすことになり、まずは仲間にこの事を知らせ、間違えないようにとの思いで、月の予定表「富士のバラだより」を作り、仲間に配布しました。これを外部の方にも配布しようとAAの説明を加え、仲間に見てもらったところ、地図が入っていないとわからないとの意見があり、裏面に会場の地図を載せ、「AA富士のバラだより」として、配布することにしました。自分のホームのメンバーは少人数のため、グループ立上げ時から一緒にやってくれる仲間が継続して、富士市、富士宮市内9か所と地元の新聞社に「AA富士のバラだより」を配布しています。新聞社は新聞に毎月、予定を掲載してくれています。自分自身も仲間に頼みっぱなしではいけないと、関係者と会い、その先にいる『今苦しんでいる仲間』に届けとの思いで話をさせて頂いています。

そんな中、医療では完治できないが、自助グループでは回復があること。自助グループの大切さを改めたためにお話を聞くと、自助グループの凄さや回復することの力、そして希望があることを実感します。

ホームグループではオープンステップミーティングをさせてもらい、関係者もゲストスピーカーとしてお話をお願いしています。先行く仲間が、AAは「関係者」と呼ばず、「AAの友人」と呼ぶんだとの話を

聞いていたんですがようやく「AAの友人」の意味が少しずつわかってきたような気がします。

『今苦しんでいる仲間のため』との思い、始めたことは、今は友人たちのおかげで自分が助かっているのだと、最近、実感している。今苦しんでいる仲間は友人たちの向こうにいるだろうが、なかなか一緒に歩むことは出来ない。

自分が苦しかった時のこと、AAで助かったこと、仲間の力のこと、回復のプログラムのこと。そこに自分の出来ることがある。話し続けることはできる。結果はきっと『金脈にあたるがごとく』かもしれない…。これからも継続して、今苦しんでいる仲間にAAの事を届けたい。

支援者向け広報フォーラムを終えて

東多摩地区／調布グループ／祥子

関東甲信越地域広報委員会主催「支援者向け広報フォーラム アルコール依存症からの回復とAAの12のステップ」を開催いたしましたので、ご報告させていただきます。

支援者向け広報フォーラムは、医療専門家や行政関係者の皆様にAAについてより良く理解をして頂くことを目的に、様々な形で毎年開催しています。2002年から2009年までは、常任理事会が主催し、全国7地域で順次開催されました。その後は各地域ごとで開催する運びとなり、関東甲信越地域では、地域広報委員会やセントラルオフィスが主催となって開催しています。2010年埼玉地区、2011年茨木地区、2012年栃木地区、2013年群馬地区で開催。2014年度はにし城西地区と東多摩地区が担当となり、10月15日(水)に武蔵野公会堂(武蔵野市)で開催いたしました。

3月から実行委員会を立ち上げ、毎月10名前後のAAメンバーが集まり、開催に向けて話し合いました。フォーラムの目的については、病気やAAについてよりよく理解して頂きたいという事は勿論のこと、モデルミーティングを通して普段のAAミーティングの様子を知って頂きたいという意見や、12ステップを通じた回復について知って頂きたい、専門家・関係機関の視点からAAがどのように映っているのか、また専門家がAAに何を求めているのかを知りたいという意見があがりました。

プログラムは1)AAの概要、2)回復者の体験談、3)専門家のスピーチ(井之頭病院デイケア 横山科長)、4)モデルミーティングとしました。フォーラムのご案内は、担当地区の行政機関やアルコール専門病院、中間施設、看護、福祉系学校、刑務所等にAAメンバーが広報チラシを持参、また郵送などでお知らせしました。市報、インターネットサイトや福祉系新聞でも告知させて頂きました。

当日は関係者36名(行政関係者18名、病院関係者9名、作業所職員2名、刑務所職員4名、介護関係者3名)、AAメンバー

30名程度の参加がありました。日ごろ広報でお伺いしている市・区役所の保健師の方々や、地区外から参加して下さい方もあり、嬉しい驚きでいっぱいでした。

井之頭病院デイケア横山科長は、元々はデイケアにAAのメッセージはいらぬとお考えでしたが、AAメンバーの熱心な訪問を受けて、デイケアへのメッセージ活動を許可して下さいました。その後デイケアからAAに繋がった人たちが回復していく姿を見て、AAプログラムの有効性を感じられるようになったそうです。今では通常ミーティングやセミナーにも参加され、AAのよき友として支えてくださっています。モデルミーティングは、話をパスする仲間あり、笑いありで、多少は普段のミーティングをイメージして頂けたと思います。またAAのインフォメーションとしては、最寄りのミーティング、特にオープンミーティングは関心のある方はどなたでも参加頂けることや、広報のご依頼に対して、無償で行政機関や学校等に出向き、AAのご説明やモデルミーティングを行っている事をお伝えしました。

お酒で困っている人たちに、AAの希望のメッセージが届くためには、橋渡しをして下さる専門家・関係機関、そしてすべての支援者の方たちとより良い関係を築き、病気やAAについて理解して頂くことは欠かせません。また正しく理解して頂くことで偏見が取り除かれ、結果として困っている人たちが医療や支援に繋がりがやすくなると思います。そのためにはAAの敷居を低くし、様々な形で病気やAAを知って頂く機会を設けたり、オープンミーティングやオープンセミナーへ足を運んで頂けるよう努める事が大切だと感じました。また様々な分野の方々との交流を通し、外からAAを見直すことで、AAがより有効な社会資源として成長していけるのではないかと思います。

最後に、仲間とフォーラムを作り上げていく過程はとても楽しく、どのようにAAをご説明したらよいか考えながら、結果として自分自身が学ばせて頂いたことがとても大きかったように思います。ありがとうございました。

■世界の窓 AA around the world

(GSOの発行するBOX459やAOSMの文書などの情報をお知らせします)

(ニューズレター編集委員まとめ)

第23回 WSM 開かれる

日本から南アフリカから、オーストラリアからフィンランドから、世界のかなんな国・地域のAAの代表が集まって、第23回ワールドサーブスミーティング(WSM)が昨年10月12日から16日まで、ポーランドのワルシャワで開かれました。(編集者注:日本からも野崎WSM評議員が参加されました)

WSMはアルコール依存からの回復のAAメッセージを運ぶ方法についての経験を世界規模で分かち合う場として1969年に生まれました。ニューヨークとその他のさまざまな都市とを交互に会場にして隔年で開かれています。過去4半世紀にわたって、世界規模で各国のAAのサービスセンターが集ってきたWSMの成果によって、AAの共同創始者であるビルが信じていた最終的な思い。つまり『苦しんでいるアルコール依存者がどこにしようとも、何語を話していようとも、助けの手がいつもある』ということを確認にするための『AAはひとつ』という思いを反映しているのです。

世界中の41カ国・地域から61名の代表によって、2014年WSMは『3つのレガシー(遺産):すべての世代にとって生きていくために必要なもの』というテーマのもとに多くの分かち合いが行われました。ワークショップで、委員会で、プレゼンテーションで、メンバーは『回復・一体性・サービスという3つのレガシー』について、それぞれの国での経験をもとにしての話し合いが持たれました。新しいなかま出会い、AAの世界規模での結びつきを強めて、代表はそれぞれの国に戻っていきました。いまWSMに集まった各国の代表は、ワルシャワで得たAAの分かち合いの経験の広さと多様性を伝えようとしています。それぞれの国のAAを豊かにし、世界規模での共同体の輪をさらに広げるために。

(BOX459 2014 冬号 より)

※AAメンバーの皆さまへ

日本からも野崎WSM評議員が参加されました。野崎WSM評議員からは評議会や地域集会等の中で今回のWSMについて報告させていただき旨を伺っております。ご都合が付きましたら是非ご出席ください。

■JSOより

もうすぐ80周年！アトランタで日本語ミーティングを開きます。

スピーカーの希望者とミーティングの司会者を募ります。まだ、プログラムは発表されていませんが、コンベンションコーディネーターからお手紙が届きました。

JSOツアー以外でアトランタ80周年大会に参加される皆さまにお願いを申し上げます。

コンベンションで開かれるミーティングは、スピーカー(3人)ミーティングになります。

スピーカー・司会者の皆さまには、コンベンションのコーディネーターから依頼のお手紙と録音の許諾書が送られ、これにサインをしていただく必要がありますのでご承知おきください。

また、これまでは大会期間中3回のミーティングが開かれています。

ミーティングのトピックは、「スポンサーシップ」「第一の目的」「三つの遺産:回復、一体性、サービス」「新しい自由:新しい幸せ」「アノニムティ」です。

ミーティングはすべてオープンミーティングで、たくさんのAA以外の参加者がやってきます。重要なこととして、スピーカーの皆さまはAAのメッセージをお届けすることを考えていただくようお願いいたします。

スピーカーをご希望の方はJSOまで、ご住所・ご氏名・連絡先などをお送りください。

AA40周年記念出版物

40周年記念集会の初日(2月20日)より発売

卓上日めくり版『今日を新たに』

予定頒布価格 ¥2,000

従来の「今日を新たに」と内容は同じですが、卓上型日めくりカレンダースタイルで限定1,500部をお届けいたします。

各グループのミーティング場の中央に、またそれぞれ個人の机の上で毎日の確認など、末永くご利用ください。(B6, 366頁+α)

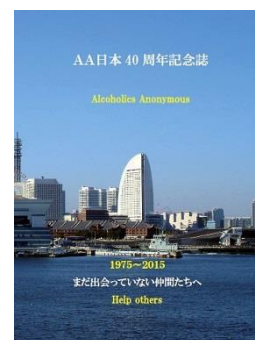


『AA40周年記念誌』予定頒布価格 ¥1,000

AA日本が誕生する以前からの40年間余の歴史が、わかりやすくまとめられており、AAメンバー必読です。

また、AA紹介やAAにやってくる人たちの回復と成長に役立つツールとして、グループなどで末永くご利用ください。

巻末にサインページがあり、寄せ書きにも最適です。(A5, 125頁, 折りたたみ)



編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス(JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

http://www.aajapan.org jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休